

チリ大学医学部にて掲載された記事

「U. de Chile, Clínica Las Condes y Tokio Medical and Dental University firman histórico acuerdo de programa de grado conjunto(チリ大学、クリカラスコンデス及び東京医科歯科大学が共同の学位プログラムに関する歴史的な協定書へ署名)」

2015 年 12 月 3 日(木)掲載

2015 年 11 月 26 日

チリ大学、クリカラスコンデス及び東京医科歯科大学が共同の学位プログラムに関する歴史的な協定書へ署名



Marcos Goycolea 先生、吉澤先生、Ennio Vivaldi 先生、Manuel Kukuljan 先生、

後方：Miguel O’Ryan 先生、Gonzalo Grebe 氏、Francisco López 先生、Juan Pablo Torres 先生

このプロジェクトは、両大学において認められる医科学博士の学位授与と並行して、消化系がんに関連した 3 分野における専門医の養成を狙う

医学部国際交流センター長 Miguel O’Ryan 先生によると、チリ大学の准教授及びクリニカラスコンデスの大腸肛門科長である Francisco López 先生が TMDU の消化器腫瘍学外科チームとの関係を築き上げたことで 2007 年に JDP の発案がされた。また 2009 年チリ保健省、クリニカラスコンデス及び TMDU の協定のもと、我国の大腸がん早期発見プログラムの活動とともに成果をあげた。

今日までに 15,000 人以上の患者を対象に本大腸がん検診が実施され、その結果として 140 人以上の患者にがんが発見された。診断を受けがんが発見された患者は外科手術及び化学療法をせず、がんの治療として内視鏡的治療を現在受けている。

この大腸がん検診の成功の結果として、チリ及び日本での医療分野における二つの資格（サブスペシャリティ領域における専門医及び博士学位）を取得できる前例のないプログラム設立計画が大山喬史前学長率いる TMDU の研究員及びドクターチーム並びにチリ大学の教員及び執行部によって 2014 年半ばに始まった。

18 ヶ月に渡る JDP 開設準備の結果により、胃腸病内科学、上部消化管外科学、大腸肛門外科学のサブスペシャリティ領域における専門医及び二つの大学から認められた医科学博士の学位の取得が認められ、2015 年 11 月 26 日、チリ代表团（頭から、Ennio Vivaldi 学長、医学部長 Manuel KuKuljan 先生、国際交流センター長 Miguel O’Ryan 先生、CLC ジェネラルマネージャー Gonzalo Grebe 氏、理事代表 Marcos Goycolea 先生、CLC の大腸肛門外科部長 Francisco López 先生及び CLC 研究センター長であり、チリ大学の准教授でもある Juan Pablo Torres 先生）が TMDU で行われるチリ大学、TMDU、CLC 共同の学位プログラムの調印式に招待され、東京に旅立った。日本側は、吉澤靖之学長、及び江石義信医学部長が協定書にサインした。

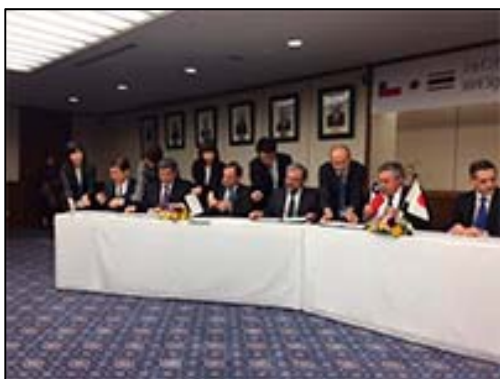
医学部長 Kukuljan 先生によると、TMDU との関係を強化することはその他の特別な意味もあり、TMDU はチリ大学の研究の質の高さから、南米の中心地となる連携国及び機関としてチリ国及びチリ大学を選んだ国立大学である。さらに JDP はチリ大学が取り組まなければならない挑戦と考える。またバイオメディカルサイエンス研究所及びクリニカラスコンデスで教育を行った日本人学生を通して長年の大学間の関係を強固にする。

O’Ryan 先生は、これは両国にとって歴史的な出来事であると述べた。なぜなら最近日本政府（文部科学省）が日本の国際化に対応した法律を制定し、日本が世界の大学と立ち上げる初めての共同の博士課程のプログラムだからである。調印式には常盤豊文部科学省高等教育局長が出席しており、これは日本及び他の外国大学で初めて行われるプログラムであると述べ、チリ大学にとっても画期的なプログラムであり、両大学学長の署名が入った学位記を共同で授与する初めてのプログラムになるだろうと説明した。

両国で行われる医科学博士課程

プログラムはどのように行われるのだろうか？O’Ryan 先生によると JDP は、専門医及び博士の学位を授与するチリ大学の既存のメディカルサイエンスを発展させたものである。

チリ大学では TMDU との設置準備及びプログラムの再認証評価に際して、サブスペシャリティ領域における専門医資格の取得を許可するため、規則を改正した。TMDU はアジアの中でも消化器腫瘍学に秀でており、大腸がんの分野において中心的な存在である。このプログラムは胃腸病内科学、上部消化管外科学、大腸肛門外科学のサブスペシャリティ領域における専門医の数を徐々に増加させるために設置した。プロジェクトは大腸肛門外科専門医を志望している第一期の学生とともに 2016 年に始まる。チリ大学は大腸肛門外科専門医の（Fondecyt（科学研究に対して報奨金を出す政府の機関）のプロジェクトとともに発展した）基礎研究及び臨床研究においても強みを持っている。論文作成時にはチリ大学医学部及び CLC の基礎及び臨床分野の指導教官が付く。また 6 ヶ月から 1 年間の滞在時は、TMDU で研究指導を行う。



協定書にサインしている日本側及びチリ側の執行部

またこのプログラムは、修了までに約 5 年かかる。学生は臨床基礎の研究を進めながら、チリ大学の Oriente キャンパスで論文作成をし、CLC にて臨床活動をしながら、メディカルサイエンスと同じ授業を受ける。作成した論文は CONICYT（チリの教育省に所属する科学技術研究を促進する組織）に申請しなければならない。JDP では、臨床教育における深い理解力が求められ、学生自身の研究領域に応じた個別の教育を受ける。

またこのプログラムは、修了までに約 5 年かかる。学生は臨床基礎の研究を進めながら、チリ大学の Oriente キャンパスで論文作成をし、CLC にて臨床活動をしながら、メディカルサイエンスと同じ授業を受ける。作成した論文は CONICYT（チリの教育省に所属する科学技術研究を促進する組織）に申請しなければならない。JDP では、臨床教育における深い理解力が求められ、学生自身の研究領域に応じた個別の教育を受ける。

O’Ryan 先生は JDP について、チリ大学の将来の教育者を養成する予定であり、そのためには研究及び共同著書をとおしてチリ・日本の科学研究を推し進めるつもりであると述べた。JDP はチリ大学の支援及び取り決めのもと行われることにより、授業料は不徴収としている。クリニカスコンデスは学生に基礎臨床研究の助手的な活動に対し報酬を与え、TMDU は東京での医療教育の滞在期間中において協力する。

チリ大学当局の説明によると、JDP の元となったメディカルサイエンスは基礎領域における専門医資格取得の大学院博士課程プログラムとして成果を上げている。なぜならコース修了者の教育及び優れた医学研究者となり常勤の教育者として将来契約することが認められているからである。

続けて JDP の日本人医師が論文作成の研究のためにチリにくることを期待すると述べた。

記者：Cecilia Valenzuela León